

名探偵コナンと古畑任三郎、どちらがお好きですか？

10月31日(月)、理科部の安谷屋知美先生が授業を公開しました(1年1組)。本時は、1年生が11月4日(金)に社会見学で訪問する『沖縄ワールド』の事前学習として、**沖縄の自然について学び、これまでに学習した理科の内容を振り返る**ことがねらいです。本時の授業を**推理小説の主人公**に例えてみました(表1)。



表1 古畑任三郎と名探偵コナンの推理方法を「授業」に例えてみると…

A	古畑任三郎	最初に容疑者(答え)を特定し、巧みな話術で執拗に質問して推理(証明)する。	演繹的
B	名探偵コナン	数々のヒントを洗い出し、パズルをつなげて推理し、容疑者(答え)を特定する。	帰納的
授業はAとBの組合せ？(時には生徒が答えを見つける、時にはなぜその答えになるのか生徒が説明する)			

本時の授業を、推理小説の主人公に例えると、どちらかと言えば、Aの授業(古畑任三郎)だったかもしれません。

「鍾乳石が1cm伸びるのには何年かかる？」(図3)など、沖縄ワールドの自然について、生徒は一問一答形式で考え、知美先生の実験や説明を聞いて、理解を深める授業デザインでした(図1)。

本時の授業をB(名探偵コナン)で行うならば、まずは生徒に「あーでもない、こーでもない」と**Trial&error (試行錯誤)**させ、仲間と協力しながらインターネット検索や教科書からヒントを見つけ、**生徒自身で「最適解とその理由を説明する」**授業となります。

AとBのどちらが正解か分からないのが「授業」の面白さだと思います。授業方法に迷った時は、**授業改善の主人公を「生徒」に据える**とイイかもしれません。授業後に「主人公が何を学んだか、何ができるようになったか」を柱にし、**生徒が名探偵になれる**授業を目指していきたいです。

社会見学と理科を関連付けて、ゼロベースから教材を作成した知美先生の教材研究力に感服(ˆoˆ) Thank you !

Hさんにインタビュー『本時の授業で学んだことは？』

沖縄の植物や鍾乳洞について、理科の視点で知ることができたので、沖縄ワールドで確かめるのが楽しみになった。



図1 二酸化炭素を吹き込むと…(化学)



図2 ロイロノートを使って問いに答える



図3 鍾乳石が1cm伸びるのに30年かかる(地学)



図4 鍾乳洞に生息する生き物(生物)